

令和6年度 評価結果

幼保連携型認定こども園
大和郡山カトリック幼稚園

1. 園の教育目標

キリスト教の愛の精神に基づき、乳幼児たちが、神様から与えられた心身の能力を活かし、個性豊かに主体的に行動できる人になっていく様に最適な環境を整え、一人一人の心に寄り添いながら心を込めて保育を行う。また、自己を大切に出来ると共に、他者を思いやる愛の心や、他者の失敗を受容できる寛い心を育み、豊かな人格と感性を育てていくことを教育目標とする。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- * 保育環境を整える（各クラスの整理整頓・美化・園庭の環境整備）
- * 職員の研修（カトリック研修やキャリアアップ研修）
- * 安全管理（今年度も防犯・防災のための避難訓練を強化する。あらゆる場面を想定して取り組み職員・園児の安全対応能力と意識の向上を図る。）
感染防止（コロナ感染症は落ち着いたが、他の感染症予防の為に換気・手洗い・消毒の徹底を引き続き行う。）
- * 幼保連携型認定こども園の理解促進と、情報提供（大和郡山市、他園）との連携強化を図る。
- ※ 「子ども誰でも通園制度」の取り組みを、大和郡山市からの依頼を受け、本園がモデル園として受け入れを行う為のこの1年間を準備期間として、受け入れ態勢を整え、保育内容を研究する。
- * 教育・保育の指導案を体系的に考え、内容をより細やかに深める為の職員の連携や、会議時間を充実させる。
- * 食育の向上（管理栄養士や調理師による給食の充実及び、心身の健康の基本となる食生活に関する教育の充実）

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
*保育環境	<ul style="list-style-type: none">● クラス運営は担任2～3人体制で、子どもの成長の度合いに最善となるような関わり、配慮を心掛けた。特に、発達に心配を抱えている子ども達にもふさわしい支援を行えるように療育施設や保護者との連携を密にし、話し合う中で保育を行えた。● 基本的な生活習慣が身につくよう環境を整え、子ども達の動線に沿った机の配置等を行った。● 屋内の生け花や、園庭の木々、芝生に触れ、花壇やプランターの季節の花や、野菜を育てることで、子どもたちが季節感を感じ、自然の生命に対する感性を育むように、全職員で協力して取り組んだ。（夏野菜・お芋等） 又、メダカやザリガニ等を飼育し、生態を観察出来るようにした。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育室のみではなく、園内全て（廊下、ベランダ、玄関、倉庫の清掃の他に、用具の整理整頓と美化を心掛けた。片付いて整ってくると、子どもたちの秩序の育成にもつながってきた。 ● 園の重点目標に沿った日常の教育・保育・園外保育を見直したり、行事を計画した。 ● 園の周りには大きな自然公園があり、郡山城址に散策に出掛けて落ち葉集めや、どんぐり・松ぼっくり拾い・大池の鯉に餌をあげる等をして、自然と触れ合い、季節の移ろいを感じられる機会を多く作った。 ● 園庭での活発な遊びができるよう、危険な箇所がないか等、有資格者の健康安全推進員が毎日点検を行い、園庭遊び時の職員の見守りする位置等にも気を付けた。 ● 個々の子ども達について、情報共有の必要なこと（子どもの特性や特徴等）については職員で話し合いを行い、参加出来なかった職員については、議事録を必ず読み、捺印をする様に徹底した。 ● 生活に必要な身の回りの事を、自分で行えるよう職員同士での話し合いの時間を取り、場合によっては保護者とも協力して取り組んだ。 ● 自分の思いを言葉で伝えたり相手の思いを知る中で、友達との関わりがより深められるようになる様に務めた。 ● 年間を通して縦割り保育を行い、様々な活動場面で思いやり、繋がり、年長者への憧れや、年少者への優しい気持ちが育つよう取り組んだ。 ● 友達との繋がりを広げ、集団で活動することを楽しめるような保育を取り入れ特に、行事の時には、それらの目的を活かすようにした。 ● 郡山市の「いずみこども園」と、本園の年長児がお互いの園で行き来して交流会を行い、子ども達の友達の輪が広がった。
*食育	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理栄養士や調理師さんとの給食会議を毎月行い、子ども達の給食時の様子や、献立によつての食べ方の違い等、細かく話し合いながら、進めていけた。特に栄養価・食べやすさ（薄味・出汁の味）・彩り・味覚・季節感等を大切にしたい給食になっているかに重点をおき、毎月の献立表を点検した。 ● アレルギー等に合わせた食事を提供できているかにも配慮をした。配膳時に保育士も間違いがない様に、クラス名とアレルギーの子の名前を書いたカードを持参した場合のみ、給食室でその子の給食を受け取れるという決まりを作り誤食がない様に最大限に注意をすることを前年度に引き続き行った。 ● 食事のマナー（姿勢や食器の扱い方等）を身に着け、食前のお祈りを皆で行い、食事を感謝して味わい楽しめるような雰囲気づくりをした。 ● イチゴの栽培やミニトマト・きゅうり・サツマイモを栽培・収穫を子ども達で行い、給食室で調理してもらっただけでなく、クラス活動や、学年活動で、子どもたち自らも調理をして、出来上がったお料理を皆で戴いた。 ● お店屋さんごっこで行ったうどん屋さんごっこを、クラス活動の時に、本物の

	<p>うどん作りをクラスのみんなで行う（混ぜる、麺打ち、伸ばす、茹でる）最後に皆で、だし汁とネギで戴いた。</p>
<p>*職員の研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼保連携認定こども園の処遇改善の為のキャリアアップ研修を、職員が必要時間受けられる様にした。 ● 特に夏休み期間や冬休み期間にある研修は、職員が時間を取り易い為、積極的に参加をした。又、カトリック研修は出来る限り、保育に差しさわりのない形で、多くの職員が受講することが出来るようにした。 ● 各自学んだことを園の保育に還元できるよう共有し合った。研修を受けたことにより様々なヒントを得て自己啓発につながった。 ● 多様な発達障害のある子どもたちにより良い支援を行えるように、毎月、保健センターのすこやか相談事業を園で実施し、療育施設の訪問指導の受け入れ等も積極的に行った。又、保護者との話し合いを密に取り、良い支援ができる様に個別支援計画をしっかりと立てることを重視した。 ● リハビリテーションセンターの訪問事業に申込み、子どもの発達の勉強会を行った。 ● 今後も、保育者自身が自己成長するため、また専門性を高めていける様に、様々な研修に参加していく必要がある。 ● 日頃の保育活動の中での反省点、問題点、課題などを生きた教材として、職員会で取り上げ、意見を交わして意識を高めておくことが、子どもたち一人ひとりに寄り添った支援に繋がることが確認できた。 ● 保護者からの意見があった時、職員が共有しておいた方が良いことや、話し合った方が良い時には、会議を開いてみんなで話し合った。
<p>*安全管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通安全、防犯や道路への飛び出し事故防止、園の門扉の開閉時間などについて保護者に注意を喚起し、インターホンでの対応だけでなく、聞き取れない時や、見慣れない顔の時などには、職員が門まで出て確認を行った。 ● 子ども達に交通安全指導（大和郡山市企画）を実施し、交通標識、信号を守る、横断歩道、踏切の渡り方、知らない人についていけないなどの指導を受けた。 ● 園内での転倒やぶつかりなどによる救急の処置（病院への搬送も）について、職員で徹底を計った。また、室内、室外での園児の行動や状況を常に把握し、事故予防を行うことを確かめ合った。 ● 火災の発生を防いだり、地震など不測の事態・事故への備え、心構えについて命を守る視点から取り組んだ。避難訓練（火災、地震を想定）年12回(毎月1回)実施した。 ● 出欠確認については、バス通園の子・徒歩通園の子と、各クラスで毎日確認をしており、9時30分時点で、出欠申請ナビや、電話連絡のない子どもについてはこちらから連絡を必ず取るようにしてクラス担任と情報を共有した。 ● 特に障害の疑いのあるお子さんには、家庭（親）と密に連絡をとり、専門医の

	<p>見解も踏まえてその子に合った適切な支援が出来るように指導方法を検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 食物アレルギーのある子には、細心の注意を払い、除去食、代替食などに配慮した。食事中にも職員がついて誤食しない様に配慮した。
--	---

4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	
良好	<p>こども園への移行に伴う新たな取り組みの徹底</p> <p>① 園の教育目標・重点目標・計画に基づいた積極的な教育・保育の展開と内容の充実</p> <p>② 避難訓練 年12回 ③新しい散歩ルート ④新しい遠足の場所 ⑤赤十字社と連携を取って、子ども達への命の大切さを教えに来て頂く ⑥郡山警察署に招かれて、交通安全の学びに参加する ⑦奈良県警による不審者侵入時の実地訓練を行った。⑧勤労感謝の日にちなんだ感謝の訪問に年長は市役所に、年中は消防署と警察に、年少は園医さんに、1, 2歳児クラスは給食室にそれぞれ感謝の言葉と、花束を渡しに行った。⑨ 地域の他園との交流・情報交換</p> <p>普段の保育を初め、行事や、上記の項目を職員が一丸となって取り組んで行けた。園児たちが日々意欲的に活動に取り組めるよう、秩序感があり、めりはりのきいた保育ができるよう環境を整えることを重点に努めた。</p> <p>日々の保育では、園児の安全・安心のみならず、保育の充実のためにも一人一人の園児を常に大切に見守る姿勢や、子どもとともに感動や喜びを共有することに重点をおいて取り組めた。</p> <p>こども園として4年目を迎え、ソフト面（職員教育・保育内容）、ハード面(必要書類)が整い、郡山市の他の子ども園とも情報を共有しあった。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
* 職員の研修	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後も、保育教諭が保護者のニーズも共有しながら園児の特性や個性を尊重し、学び取り実践していくように努める。 ● 縦割り保育・横割り保育をしているので保育教諭間で、子どものことについて理解を深める為、情報を交換し、連携を密にして行く。 ● 保育教諭として子どもに関わっていく中で、子どもへの関わりが子どもの立場に立って尊重した関わり方になっているか等、日々振り返りの時間を取り大切にする。他の先生からの考えもしっかり聞く。 ● モンテッソーリ教育の「モデリング」の精神を自覚し、保育教諭が子ども達のモデルになるように言葉遣いや、行動に配慮して、その使命を達成す

	<p>るよう努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今後も、こども園としての安全面への徹底を図る。
* 保育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 園児が日々新しい発見、気づき、感動が得られるよう、保育教諭が園児一人一人の気持ちに寄り添い、愛情を込めて向き合い、子どもと喜びを共にする。 ● 絵画・英語・音楽の専門教師と連携を計り、日常の保育に見られない子どもの特徴や様子なども掌握し、子どもの情操、能力、素質などについても意見交換を行う。
* 安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通安全、地震、火災など、機会があるごとに指導し、子どもたちの安全意識を高める。 ● 避難訓練を更に多様化させ、あらゆる場面を想定した訓練を行う。
* 保護者と園との密な協力、連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 園の教育方針と園活動について、保護者の理解を深めていただけるよう、園からの情報発信をお手紙のみではなくて、ホームページなどを通して理解と協力を求めて行く。特にコミュニビを使つてのメール連絡等もフル活用して、たくさんの保護者の方が目を通していただけるようにする。 ● 地域子育て支援拠点事業の「いちご畑」も、利用者の視点で今後も考えて子育てすることが楽しくなるような内容を提供出来る様にしていきたい。いちご畑を月曜から金曜日まで、毎日行った。申し込み方法などについて、更なる検討が必要だと考えている。
* 情報の共有、発信	<ul style="list-style-type: none"> ● 特に台風・地震・不審者等、緊急事態が起きた時の連絡方法をしっかりと伝えていく。

6. 関係者の評価

<ul style="list-style-type: none"> ● 「給食が美味しいからお代わりをした」と、子どもたちが言っているのが嬉しい。ばんびクラスでは給食試食会があったので、実際に親も食べてみて、とても美味しかった。 ● こども園の細かな決まり事（髪留めの大きさ等）微妙な物について、統一することは難しいだろうけども、女の子は可愛くしたいようなので、出来たらもっと個人に任せてもらえると思う。 ● 親の参加する行事の変更日や内容など、仕事をしている為に出来るだけ早くに知らせたいが、時々、遅いことがある。 ● 各クラスが2人から3人担任制になっており、縦割りになったり、横割りになったりしながら、1日過ごせるのが良いと思う。子どものその日の活動に、いろんな先生から声を掛けてもらえて、嬉しい。 ● 新しい建物なので、衛生面や、安全面など防犯設備もしっかりしている。不審者については、防犯カメラも付けられて、いつも施錠しているので安心である。しかし、登降園時に、次の保護者の為に扉を開けたままの人がいることがあり、そのあたりを注意してもらいたい。 ● 障害や発達の遅れている子にも配慮がなされ、教員の配置にも配慮されている。 ● 色々な専門指導や、ファミリーデーなどの楽しい行事、もあり保護者も楽しませてもらっている。
--

子どもたちの自立と自律心を養うための関わりをしてきているのが嬉しい。

- こども園になってからは特に、ここの園に入園させたいとの希望を持っている方の声をよく聞くようになった。入れなかった時には非常に残念がっていたので、もう少し、入れる枠を増やしてもらえないだろうか。
 - ここのこども園には、郡山市内のいろんな校区から来ているので、今後、年長児が進学先の小学校と繋がれる機会を増やして欲しい。又、小学校のみならず地域社会と園と保護者のつながりの機会や、連携を増やしていけるともっと良くなると思う。しかし、少数ではあるが、保護者参観を仕事がある為に少なくして欲しいという意見もあった。
 - コミュナビの活用の幅が広がり、いくみ会の総会資料やアンケートと取る時にも利用が出来て、大変便利になった。以前であれば、印刷物だったので時間が掛かっていたが、直ぐに返信が出来て役員活動がスムーズに出来るようになったので、大変便利になった。
 - こども園になってから4年間。仕事をしている保護者が大半なので、いくみ会役員を失くして欲しいという意見が多くあった。今までに何度も何度も役員さんで話し合いを行って、全保護者にアンケート調査も何度も取る事を行った。結果として、今のいくみ会は解散することになり、これからは、園が中心になりながら、ボランティアとして、有志で子どもたちを支えていく事をみんなで決めた。これこそが、本来のボランティア活動で、大変嬉しく思う。沢山の保護者の方から、園に、「行事の時など、必要なときには何時でも言ってください」と、自主的で協力的な言葉をいただいている。
- 園としても、お母さん同士、お父さん同士の繋がりの方は、是非これからも続けていきたいと考えている。又、行事など、可愛い子どもたちの姿も、沢山見に来て頂きたいと思っている。